

創刊
準備号

4

2017年2月19日発行

福祉と介護のミニコミ誌

ふいねず



Susie

(画) amor amigo

Topic

特別寄稿・日常生活圏の核となる「地域拠点のあり方」

連載 心地よい関係性のバランス

起業・就労・支援の間で…

Information 福祉・介護・まちづくり等のイベント情報欄

特別寄稿
日常生活圏域の
核となる
「地域拠点」のあり方
(4)

山越孝浩

第2節 地域福祉コーディネー

ターの実践のためのガイ
ドライン〜コーディネー
ターの心得〜

2. 地域福祉コーディネーターが

心得ておくべきこと

(1) あきらめない

高齢者が日常生活で不安なこと
があったり、住んでいる環境や近
隣との関係の困難さがあったても、
まずはあきらめないこと。高齢者
には、できる力と可能性がある。

(2) まず、出るよ

拠点の中だけでは何も始まらな
い。自ら足を運び、その目で住民
の暮らしの営みを見て、いま、何

が求められていて、何をすべきな
のかを肌で感じることに。

(3) 話を聞く

話を聞くこと。それは単に面接
することではなく、地区の集まり
でも、おたっしやサークルでも、
老人クラブの会合でも、道すがら
の立ち話でも聞くことができる。

(4) 「思い」や「願い」を大切に

誰もが年をとっても介護が必要
になっても、住み慣れた自宅や地
域の中で家族や親しい人ととも
に、最期までその人らしい人生を
送りたいと望んでいる。そうした
在宅での生活を送り続けたいとい
う高齢者の思いや家族の願いを大
切にすること。

(5) 24時間365日の安心を届ける

暮らしを支えるということは、
24時間365日、切れ目ない「安心」
を届けるということ。「その人ら
しい暮らし」を実現するために、
本人をよく知っている家族や介護
者、近隣や知人と一緒に、地域の
中で、継続的なかかわりを。

(6) 「困った！」に応える

さまざまな「困った！」に対し
て、今できることは何か、すぐに
すべきことは何かを考え、行動す
ること。その際に、自らの直接支
援だけでなく、本人を支えるため
の力は周囲にないかも考え、行動
する。

(7) 一人ひとりにオーダーメイドを

高齢者からの相談に対し、自宅
や地域で生活し続けることができ
るように、本人の能力に応じて
オーダーメイドのかかわりをもつ
こと。

(8) 「ひきだし」をたくさん持つ

(情報を収集・提供する)

地域福祉コーディネーターとし
ての「ひきだし」をたくさん持つ
こと。困りごとのある住民からの
相談に対する情報提供はもちろ
ん、ちょっとしたお手伝いをし

たいと思っている住民を把握した
り、活動するための情報を提供し
たりすることも大切である。また、
専門職からの問い合わせに対して

も、生活者の視点を貫いた情報を
提供すること。

(9) まずは知ってもらおう

地域で身近な場所として、また、
悩みや困りごとを打ち明けられる
人として、あの人がいるところだ
から相談しても大丈夫といった地
域の一員として認識してもらおう
ために、地域福祉コーディネーター

(機能) を知ってもらおう。

(10) 地域には協力者がいる

世話焼きさん、地域団体、ボラ
ンティアといった担い手となり得
る人材は地域にいる。仰々しいこ
とはしていなくても「お隣さんの
ためだったら」「そのぐらいであ
れば…」というちょっとした力を
活かし、生活支援や見守りの具体
的な方法や地域の掘り起し(地域
資源の開発)を行うこと。

(11) 軒下マップをつくること

アセスメントや支援を考える前
に、まず、高齢者を理解すること。
そのためには、受け手、担い手の
別なく、軒下マップをつくること。

軒下マップには「人」だけでなく、「つながり」や「役割」「習慣」など、本人を知る見取り図となるよう描く。

(12) 「つなぐ」こと

これまで本人が培ってきた暮らしを「つむぐ」ことや「人と人」「人と場」「本人と役割・生きがい」などをつなぐこと。

(13) 一緒に考える（軒下会議や地域ケア会議）

本人中心の支援の輪を、周囲（近隣、知人・友人、地域団体等）とつくるとともに、高齢者自身の問題解決のための作戦会議（軒下会議）や地域の課題を考えるための地域ケア会議をもち、みんなと一緒に考えること。

(14) 常に変化している

暮らしは日々変化している。昨日できていたことが今日はできず、今日できていたことが明日できるとは限らない。常に流動的なものが暮らしである。

東日本大震災で被害の遭った宮城県石巻市渡波地区に発災直後から避難所支援をしていた福祉職のボランティア団体の東北関東大震災・共同支援ネットワークが被災された方の居場所や交流の場として始めたサロン活動が、よってがいんの前身になります。

ボランティアと地域の住民で行われていた活動を、千葉のNPO法人井戸端介護と仙台の生活協同組合あいコープみやぎの支援で立ち上がったのがNPO法人お茶っこケアです。

今年の3月で震災から6年がたちます、よってがいんは開所から3年半になります。

よってがいんでは、この春に石巻支援学校を卒業する女の子を受け入れる準備をしています。女の子は医療的ケアの必要な重度の障害があり、出会いは支援学校を通じて女の子のお母

さんが施設体験の話を相談して来た事です。

最初、よってがいんは高齢者と障害者が一緒に過ごす共生型の事業所ですが、医療的ケアを必要とするお年寄りや障害を持つ方の利用がない事と看護職員が居ないので受入れの体制が取れない事を伝えお断りしました。それでも、再度の連絡を頂いき施設体験の希望を受けて支援学校から看護師と担任の先生が来てくださり、お母さんも見学を一緒にしながらの施設体験が行われました。

女の子の必要とする医療的ケアは痰の吸引と胃ろうで、痰の吸引は常時行い続けなければならず、在宅で過ごすには卒業後の居場所となる事業所が必要でした。支援学校の先生やお母さんの話を聞き、女の子が利用する場所が無いために送り迎えに車で1時間以上掛かる事業所を

検討している事や、利用できる所が見つからずに在宅を諦め施設に入所した方の事を知りました。よってがいんでは何か出来ないかと考え、職員で介護職員が医療的ケアを行う為に受ける研修に参加して資格を取得して関係機関と連携をとって助言を貰うなどしたり、女の子が車椅子で移動するには既存の民家型では身動きがとれないので敷地続きの隣に事業所を借りました。

これからよってがいんは新たな場所でも重い障害の方の受け入れや、地域サロンを行う準備をしています。東日本大震災から始まった誰もが居場所とする事の出来るよってがいんをこれからもみんなが続けて行くために動きだしました。

（よってがいん代表 粕屋裕之）

フルートとピッコロの違い

フルートとピッコロは、音の出
し方も指使いも、操作方法は基本
的にすべて同じ楽器だ。だから、
フルートが吹ける人はピッコロも
吹けるといことになる。違うの
は大きさと音の高さ。ピッコロは
フルートの半分の長さで、穴の大
きさも、穴と穴の距離も全部フ
ルートより小さい。それで「ピッ
コロ（イタリア語）＝小さい」と
いう名前がついている。そしてと
ても高い音が出る。ブラスバンド
などでは、ピッコロ専属の奏者が
いることもあるが、フルート奏者
が必要なきにピッコロに持ち替
えて吹くというスタイルもよく見
られる。私も学生時代にブラスバ
ンドで、この2つの楽器を持ち替
えて演奏していた。どちらの楽器
が好きかと聞かれると、やはり
フルートと答えてしまうのだが、
ピッコロはピッコロでとても好き
な楽器だ。事業所の名前にしてし

まうくらいに。

フルートは表現力が豊かで、独
特な風の音のような音色は、バン
ド全体のサウンドに柔らかさや滑
らかさ、華やかさなどを加える役
割を担うこともできる。しかし、
ピッコロはちよつと違う。どうし
ようもない存在感で、サウンドに
切れ味を出すときに使われる。ど
ちらかと言えば、打楽器のような
役割を要求されることが、ブラス
バンドではよくあった。
障害者自立支援法がスタートし
て、障害の分野でも地域支援のあ
り方が法律のなかで描かれるよう
になった。まだまだよちよち歩き
だが、私の暮らす地域でも、少し
ずつ地域でチームをつくり、ケア
マネジメントの手法を用いた支援
が動き出している。言うまでもな
いが、この支援の要は個別支援会
議だ。これまでの1か所の施設が
すべてを担当するという入所施設
ケアのしくみに慣れてきたわれわ

れも、地域ではいろいろな所属の、
いろいろな立場のスタッフと手を
取り合つて、利用者のためのケア
プランを考えていかなければなら
ない。だから、この支援方法の成
功の鍵を握るのが、個別支援会議
ということになる。

持ち替えのタイミング

最近、私は個別支援会議に出席
していると、自分がかつてのよう
にフルートとピッコロを持ち替え
て演奏しているイメージになるこ
とがある。できればずっとフルー
トを吹いていきたいのだ。全体のサ
ウンドに艶を出すような、そうい
うポジションで感じよく、心地よ
く存在していきたい。そういうとき
の私は非常に寛大になる。自分と
違つた意見に対しても「なるほど、
そういう考えもあるわけだ」と、
異質なもののさえサウンドの「味」
としてとらえられる。「多少の『癖』
は、私の音色でマイルドにできま
す」と。ところが「その考えは受
け入れられない」という発言を誰
かがすると一転、黙つてはいたら
ない。持論をガンガン展開してし

まう。すっかりピッコロモードに
なるわけだ。ピッコロに持ち替え
た私は、これでもかこれでもかと、
存在感丸出しで語つてしまふとい
うわけだ。

しかし、この持ち替えのタイミ
ングとバランスが難しい。最後ま
ですつとフルートモードで会議に
参加し、終わつてから後悔するこ
ともあれば、ピッコロモードにな
るタイミングが早すぎて相手をね
じ伏せてしまふと、せつかく全体
で積み上げたハーモニーが台無し
になつてしまふこともある。会議
の目的は相手をねじ伏せること
ではない。よきパートナーシップを
もつて、利用者中心の支援チーム
として機能することだ。お互いに
尊重し合つて、かつ主張し合える。
そういうチームづくりが理想なの
だが、まだまだ力量不足である。
素晴らしいサウンドのために
どんなに素晴らしい腕前でも、
バンドのなかで浮いてしまつては
元も子もない。それぞれが、それ
ぞれの得意なポジションで、十分
にその実力を引き出されて初め

私の子育て奮闘記

「関わりによる育ち」

療育を中心とした生活を始めて1年が過ぎ、長男は小学校2年生に、次男は年長になった。そして、私は家庭の事情で週2日の仕事をする年となった。

学校生活を送るのも、担任の先生で大きく左右される。長男は、学校の先生方に慣れてはいたが、今度の担任の先生は厳しさもある先生となった。そんなわけで私は、年度当初は本人にとつて今年は大変な学校生活になるかと思っていた。

※この原稿は、Juntos (フントス) CLC 発行の情報誌からの転載です。著者と発行者承諾のもと転載しています。

大友愛美 (おおともよしみ)

北海道生まれ北海道育ち、生粋の道産子です。大学卒業後、最初の福祉現場、知的障害者入所施設では地域と施設をつなぐコミュニティワーカーのような仕事をし、その後は地域で生きる人たちを支える仕事をしました。どちらの現場でも自閉症の人たちとの出会いが多く、たくさん悩み、たくさん学びました。

最近では、共生社会の実現を目指すNPO法人での仕事や、福祉の担い手を育てる場(学校や研修)での仕事をしつつ、自閉症など地域で生きにくい状況を抱えた人たちの相談や支援の仕事もしています。他の多くの人と違っていても排除しない、されない社会の構成員になるためには、学ぶだけではなく、いろいろな人と一緒に暮らす練習が必要なのかもしれない…。と感じている今日この頃です。

そんな私の予想をくつがえし、長男は先生の段階的な言葉がけや、働きかけによりどんどん変化して、クラスの中で大きな声で答えを言えるまでに変化しました。出席確認の際の「ハイ、元気です」から始まり、掛け算の答えや、式、国語のわかっていている部分、そして、グループ内で作文を発表しあう時の読み上げ等。

どれも、今年中にできるようになるとは予想もしなかったことだ。声を出したときに、間違っている、さりげなくヒントをくれる先生、声を出したことを喜んでくれたり、小さな声でも一生懸命聞こうとしてくれるクラス

メイトたち。そんなことも、本人にとっては、声を出した際の良いフィードバックとなっていたのではないかと思う。前述の児童デイの事業所での取り組みの経験ももちろん、連動してのことだろうと思う。本当にまわりの方々のおかげだと思った。

次男の療育は、小学校入学前の1年ということで、力んでABAを中心にして色々やってみた年だったが、思うように教材をつくる時間が取れずに、十分に時間をかけられなかった気がしていた。けれども、そんな中で要求語が促されなくても、ぽつぽつと日常で、使える頻度が増えてきたり、保育園で、やる！と言えたりということが出てきた。また、今までできなかった連続の模倣ができるようになってきたり、就学時検診の際の視力検査が出来たり、と様々な場面で成長を感じることもあった。

1年を過ぎて思うこと、それは療育は長く続くので、楽しみながらすること、そして、色々な人に関わってもらえることがとても大切だと改めて実感している日々である。

発達遅れを持つ2児の母。16年続けた社会福祉の仕事や、家庭で子どもの力を伸ばすこと、地域で生きることを考えながら日々奮闘中

フリーダイヤル つなぐ ささえる
0120-279-338
よりよいホットライン

24時間 通話料無料

心の悩み 発達の悩み 学習の悩み 読書の悩み 生活の悩み 外国人住居の悩み DV・性暴力の悩み 仕事の悩み 人間関係の悩み セクシュアルマイノリティの悩み 自閉症 子育ての悩み

CLICK!

起業・就労・支援の間で…

「それぞれが活躍できる場とチャンスを一！」

(「コミュニケーションワークス 理事長 筒井啓介」)

カナダのトロントにあるスターバックス（コーヒーショップ）で働く1人の青年がインターネット上の動画サイトYOUTUBEで話題になっています。この青年は「踊るバリスタ」と呼ばれるほどの名物店員で、カウンター内でありズミカルに体を動かしながら、お客様のオーダーしたドリンクを作るというのです。

実はこの彼には自閉症があります。自閉症がゆえに突発的に体が動くなど自分で体をうまくコントロールすることができず、スターバックスに就職が決まった時も、まさか自分がカウンター内に立つて働くことができるとは思っていません。みながったようです。

ました。結果、今では彼は一躍有名となりましたが、ここまで来るには、彼自身も指導するマネージャーも、そして一緒に働く仲間も相当な苦労があつたでしょうし、それぞれに努力も重ねてきたはず。私は、彼にチャンスと場を与えたマネージャーと、それを一緒に支えてくれる仲間がいたことは本当に素晴らしいと率直に感じました。

障がいのある・なしに関わらず、人は誰しも得意・不得意がありますし、できること・できないこともあります。不得意なことやできないことを無理にやろうとすれば、それはストレス以外の何物でもありません。そうではなく、得意なことやできることをどう仕事にしていくのかを考え、さらにはその人の特性や個性を活かすことができる場を与えたり、仕事を創り出すことが、マネージャーの役割です。就労支援事業所の利用者さんにとってみれば、マネージャーは支援員（職員）の方になるでしょうし、支援員の方にとつてみれば、管理者がマネージャーにあたるわけです。利用者さんも支援員も、1人1人の良さを活かすことができる仕事の仕方ができれば、組織としてもきつと大きな成果があげられるはずです。

そして、それぞれの不得意なことやできないことは、他の人の得意なことであつたり、できることであつたりします。何でもできる完璧な人間などいません。できないことはお互いにフォローし合えばそれでよいのです。これこそが、組織（チーム）で仕事をしている意味です。

人はどうしても「できていないこと」ばかりに目が向きがちですが、できないことややれていないことを指摘しあつたところで、何もない方向には進みません。自分があるはずで、それは知らないうちに周りがフォローしてくれているのです。冒頭の青年のように、利

用者さんにも支援員にも、それぞれの良さや特性を活かすことができる場とチャンスを与えることができるように、私も努力を重ねていきたいと思えます。

Natural Café+Shop hanahaco

営業日：11時～16時（定休日：火曜）

木更津市矢那 1879-1

電話：0438-38-4368

メール：info@npo-cw.net

Facebook

<https://www.facebook.com/hanahaco.k/>

Information 福祉・介護・まちづくり等のイベント情報欄

2月10日までに、編集部へ届いた情報です。詳細は、各情報の連絡先にお問い合わせください。また、情報欄への掲載を希望する方は、編集部までご連絡ください。

《第22回 街 CAFE さくら》

【3月の催し物】

「笑いヨガ&カラオケ」

日時：2017年3月19日（日）

13:00～16:00

会場：東金市東金 1060-6

(SUNFLOWER 1F内)

参加費：100円（お茶代）

問い合わせ先：社会福祉法人ゆりの木会内
認知症カフェ担当 平賀・笠原 (0475-50-8111)

《穂垂るの会》

介護している方々が集まって日々の苦労話等を気軽に本音で話し合う会です。

日時：2017年3月9日（木）

13:30～15:30

会場：ふれあいセンター 2階 創作室

経費：200円（昼食代）

主催・連絡先：穂垂るの会・井上

(090-7171-1701)

《成年後見制度研修会》

日時：2017年3月12日（日）

13:00～16:00

内容：成年後見制度の説明

会場：千葉市生涯学習センター 2階
ホール

参加費：500円（資料代）

主催・連絡先：千葉県社会福祉協議会
043-204-6012

《共に暮らすを考える集い》

日時：2017年3月20日（月）

10:00～12:00

会場：東金市ふれあいセンター

内容：基調講演

講師：大友愛美

参加対象：障がい児・者保護者 他

参加費：無料（※チラシあり）

主催・連絡先：ちば地域生活支援舎
0475-53-3630

< hanahaco 上映会「ザ・トゥルー・コスト」出張寺シネマ Vol.2 >

華やかなファッション業界の裏側～知られざる真実とは？

Natural Cafe+Shop hanahaco で行う出張寺シネマ Vol.2。

今回の上映タイトルは「ザ・トゥルー・コスト」。ファッション業界でも大量生産・大量消費が問題化。誰かの犠牲の上に成り立つファッションに変化が起き始めた！トレンドはエシカル&フェアトレード・ファッション。

ファッション産業の今と、向かうべき未来を描き出すドキュメンタリー。

上映後には蓮久寺住職 江口さんの一口説法も聞けます。hanahaco のライフスタイルショップで取り扱うフェアトレードアパレルの製造秘話もご紹介予定。

・日時：2017年4月9日（日）第1回目：14:00～16:00、第2回目：17:00～19:00

・場所：Natural Cafe+Shop hanahaco（木更津市矢那 1879-1）

・参加費：1000円（ドリンク付き）

・定員：各回20名

・申込：電話（0438-38-4368）かメール（info@npo-cw.net）にてお願いします。

ドコモ市民活動団体助成事業

【助成対象活動】

1. 子どもの健全な育成を支援する活動

- ①不登校・ひきこもりの子どもや保護者に対する精神的・物理的な支援、復学、社会的自立支援活動（フリースクール、カウンセリング等）
- ②児童虐待やドメスティック・バイオレンス（DV）、性暴力などの被害児童・生徒や社会的養護を必要とする子どもの支援、及び虐待防止啓発活動。
- ③非行や犯罪から子どもを守り、立ち直りを支援する活動。
- ④子どもの居場所づくり（安心・安全な居場所の提供・子どもの不安や悩みに対する相談活動等）
- ⑤障がい（身体障がい・発達障がい等）のある子どもや難病の子どもの支援活動（療育活動、保護者のピアサポート活動等）
- ⑥マイノリティ（外国にルーツを持つ、LGBT等）の子どもを支援する活動。
- ⑦地震・台風などの自然災害で被災した子どもを支援する活動。
- ⑧上記①～⑦以外で「子どもの健全な育成」目的とした活動。

2. 経済的困難を抱える子どもを支援する活動

- ①学習支援活動放課後学習サポート、訪問学習支援、学習能力に合わせた個別ケア等。
- ②生活支援活動子育てサロン、子ども食堂、ひとり親家庭料理教室、フードバンク、居場所の提供等。
- ③就労支援活動職業体験、社会的養護退所者の就労支援等
- ④上記①～③以外で「経済的困難を抱える子どもの支援」を目的とした活動。

【助成額】

- ①子どもの健全な育成を支援する活動助成額：50～100万円／1件 総額：2,500万円
- ②経済的困難を抱える子どもを支援する活動助成額：100万円／1件 総額：1,000万円

【助成期間】

平成29年9月1日～平成30年8月31日

【応募締め切り】

平成29年3月31日

【お問い合わせ先】

NPO法人モバイル・コミュニケーション・ファンド

〒100-6150 東京都千代田区永田町2-11-1 山王パークタワー41階 TEL：03-3509-7651

サポート会員募集

「ふれーず」の編集・発行を応援いただけるサポート会員を募集します。

応援いただける方は、ぜひ、ご連絡ください。

【内容】

会費：1口3,000円（※個人・団体）

期間：年度単位

【連絡先】

特定非営利活動法人ちば地域生活支援舎
総務・企画課（0475-53-3630）



<表紙画 amor amigo さんの紹介>

イスラエルに縁ある夫、ペルーに住んでいた妻、17歳差の夫婦ユニット。山口県萩市で私たちが娘と暮らすのは、毛利の殿様が参勤交代で通ったお成り道に面した築200年の古民家です。そこで、イラスト業と並行しつつ、祖父から注いだ画材屋、重厚な梁が残る古民家BAR、ピタサンド専門店、アート教室などを営んでいます。

発行元：ふれーず編集部
千葉県東金市東金425-2（鶴嶺の家内）
TEL：0475-53-3630
編集責任者：宮下・太齋
発行部数：500部

東日本大震災から6年が経とうとしています。亡くなられた方のご冥福をお祈りするとともに、今も仮設住宅をはじめ、避難生活を送られている方々が、一日でも早く自宅や住み慣れた地域へ戻れることをお祈りしています（To）